

1. 建物概要

建物名称	磐田市消防庁舎	BEE	1.8	BEEランク	A	★★★★
------	---------	-----	-----	--------	---	------

2. 重点項目への取組み度

重点項目	得点 [※] /満点	取組み度	評価
“ふじのくに地球温暖化対策実行計画”の推進 (Global Warming)	3.7 /5		ふつう 
“災害に強いしずおか”の形成 (Disaster)	4.7 /5		よい 
“しずおかユニバーサルデザイン”の推進 (Universal Design)	3.9 /5		ふつう 
“緑化及び自然景観”の保全・回復 (Nature)	2.7 /5		がんばろう 
※対応するCASBEEのスコア(平均)を5点満点で表示します。(スコア1.0=1点、スコア5.0=5点)		評価 凡例	
		よい 4 点以上	
		ふつう 3 点以上	
		がんばろう 3 点未満	

3. 重点項目についての環境配慮概要

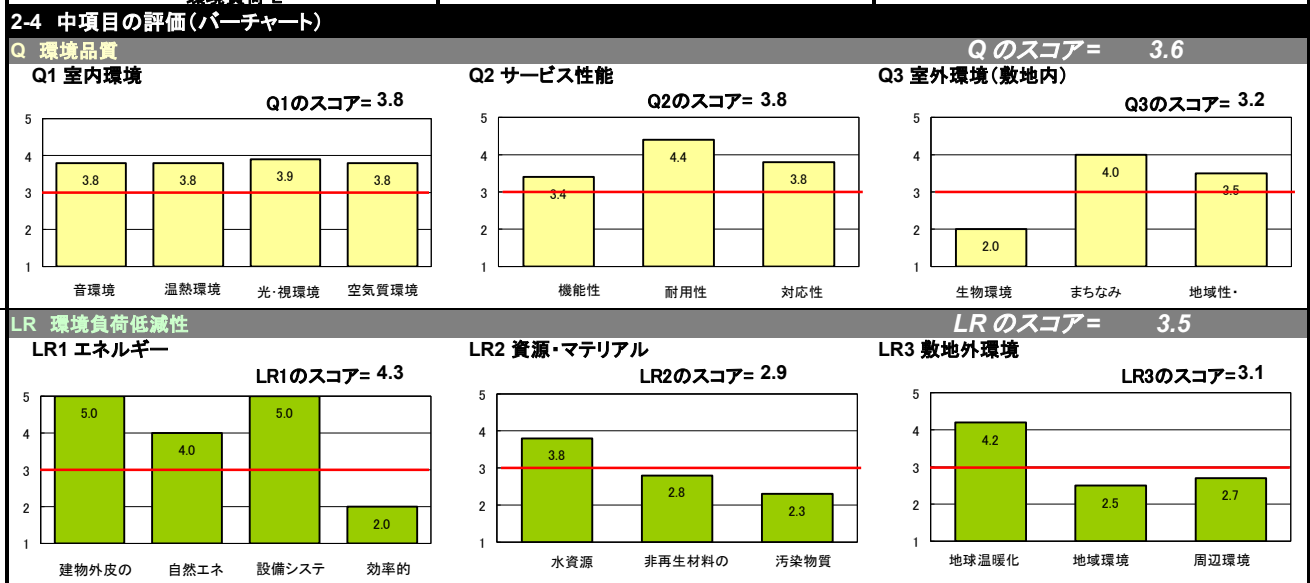
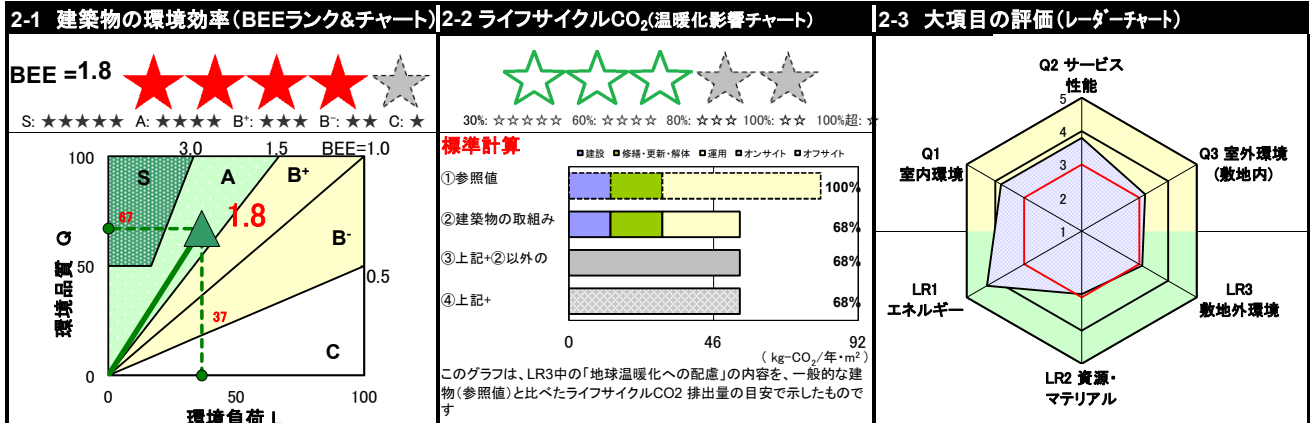
各項目について配慮した内容を、該当する番号(①～)を示し記述してください。		内訳対応項目	
“ふじのくに地球温暖化対策実行計画”の推進(Global Warming)		得点	3.7
	■室内環境対策 (①室温制御/②昼光対策/③グレア対策/④部品・部材の耐用年数) ①開口部の縮小、高断熱化、一部地盤面下による熱負荷抑制。 ②彫りの深い南面ファサード。	Q-1 2 2.1 2.1.2 ① Q-1 3 3.1 3.1.3 ② 3.2 3.2.1 ③ Q-2 2 2.2 2.2.1 ④ 2.2.2 ④ 2.2.3 ④ 2.2.4 ④ 2.2.5 ④ 2.2.6 ④	① 外皮性能 ② 昼光利用設備 ③ 昼光制御 ④ 躯体材料の耐用年数 ④ 外壁仕上げ材の補修必要間隔 ④ 主要内装仕上げ材の更新必要間隔 ④ 空調換気ダクトの更新必要間隔 ④ 空調・給排水配管の更新必要間隔 ④ 主要設備機器の更新必要間隔
	■室外環境(敷地内)対策 (⑤生物環境の保全と創出/⑥敷地内温熱環境の向上) ⑤外構緑化指数21%以上を確保。 ⑥緑地の緑が連続するような外構植栽計画。	Q-3 1 ⑤ 3 3.2 ⑥	⑤ 生物環境の保全と創出 ⑥ 敷地内温熱環境の向上
	■エネルギー対策 (⑦建物外皮の熱負荷抑制/⑧自然エネルギー利用/⑨設備システムの高効率化/⑩効率的運用) ⑦開口部の縮小、高断熱化、一部地盤面下による熱負荷抑制。 ⑧自然通風、訓練用雨水利用等による自然エネルギーの利用。 ⑨LED照明の採用。高効率空調機の導入。 ⑩BEMSの導入によるエネルギー管理。	LR-1 1 ⑦ 2 ⑧ 3 ⑨ 4 4.1 ⑩ 4.2 ⑩	⑦ 建物外皮の熱負荷抑制 ⑧ 自然エネルギー利用 ⑨ 設備システムの高効率化 ⑩ モニタリング ⑩ 運用管理体制
	■資源・マテリアル対策 (⑪水資源保護/⑫非再生性資源の使用量削減/⑬汚染物質含有材料の使用回避) ⑪雨水貯留槽による雨水の有効利用。 ⑫プレストレスコンクリートの使用による使用材料の削減。	LR-2 1 1.1 ⑪ 1.2 1.2.1 ⑪ 1.2.2 ⑪ 2 2.1 ⑪ 2.2 ⑪ 2.3 ⑪ 2.4 ⑪ 2.5 ⑪ 2.6 ⑪ 3 3.1 ⑬ 3.2 3.2.1 ⑬ 3.2.2 ⑬ 3.2.3 ⑬	⑪ 節水 ⑪ 雨水利用システム導入の有無 ⑪ 雑排水等利用システム導入の有無 ⑪ 材料使用量の削減 ⑪ 既存建築躯体等の継続使用 ⑪ 躯体材料におけるリサイクル材の使用 ⑪ 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用 ⑪ 持続可能な森林から産出された木材 ⑪ 部材の再利用可能性向上への取組み ⑬ 有害物質を含まない材料の使用 ⑬ 消火剤 ⑬ 断熱材 ⑬ 冷媒
	■敷地外環境対策 (⑭地球温暖化への配慮/⑮温熱環境悪化の改善) ⑭太陽光パネル、ハイブリッド外灯等による省エネルギー対策。 ⑮主風向(西風)に対する見付面積比を50%以下。	LR-3 1 ⑭ 2 2.2 ⑮	⑭ 地球温暖化への配慮 ⑮ 温熱環境悪化の改善
“災害に強いしずおか”の形成(Disaster)		得点	4.7
	■サービス性能対策 (⑯耐震・免震/⑰信頼性) ⑯用途係数 $I=1.25 \times$ 地域係数 $Z_s=1.2 = 50\%$ 増 ⑰中央空調換気設備を設けない計画。緊急排水層の設置。非常用発電機の設置。	Q-2 2 2.1 2.1.1 ⑯ 2.1.2 ⑯ 2.4 2.4.1 ⑰ 2.4.2 ⑰ 2.4.3 ⑰ 2.4.4 ⑰ 2.4.5 ⑰	⑯ 耐震性 ⑯ 免震・制振性能 ⑰ 空調・換気設備 ⑰ 給排水・衛生設備 ⑰ 電気設備 ⑰ 機械・配管支持方法 ⑰ 通信・情報設備
“しずおかユニバーサルデザイン”の推進(Universal Design)		得点	3.9
	■サービス性能対策 (⑱機能性・使いやすさ/⑲心理性・快適性/⑳空間のゆとり) ⑱多様性に配慮した仮眠室、更衣室 ⑲天井高さの確保。 ⑳階高の確保	Q-2 1 1.1 1.1.3 ⑱/⑲ 3 3.1 3.1.1 ⑲ 3.1.2 ⑲	⑱/⑲ ユニバーサルデザイン計画 ⑲ 階高のゆとり ⑲ 空間の形状・自由さ
	■室外環境(敷地内)対策 (㉑地域性・アメニティへの配慮) ㉑地域に開放された外構散策路、見学テラス等。	Q-3 3 3.1 ㉑	㉑ 地域性への配慮、快適性の向上
“緑化及び自然景観”の保全・回復(Nature)		得点	2.7
	■室外環境(敷地内)対策 (㉒生物環境の保全と創出/㉓まちなみ・景観への配慮/㉔敷地内温熱環境の向上) ㉒外構緑化指数21%以上を確保した。 ㉒周辺の高低差と馴染んだ緑が連続する植栽計画。防火樹を植樹し防災力を発信する植栽計画。	Q-3 1 ⑤ 2 ⑥ 3 3.2 ⑥	⑤ 生物環境の保全と創出 ⑥ まちなみ景観への配慮 ⑥ 敷地内温熱環境の向上
	■敷地外環境対策 (㉕持続可能な森林から産出された木材/㉖温熱環境悪化の改善) ㉕静岡県産材を使用 ㉖主風向(西風)に対する見付面積比を50%以下とした。	LR-2 2 2.5 ⑫ LR-3 2 2.2 ⑮	⑫ 持続可能な森林から産出された木材 ⑮ 温熱環境悪化の改善

CASBEE®-建築(新築)

評価結果

■ 使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2021年SDGs対応版 ■ 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2021SDGs(v1.2)

1-1 建物概要			1-2 外観	
建物名称	磐田市消防庁舎	階数	地上3F	
建設地	静岡県磐田市	構造	RC造	
用途地域	市街化調整区域 防火地域の指定	平均居住人員	90 人	
地域区分	7地域	年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)	
建物用途	事務所	評価の段階	実施設計段階評価	
竣工年	2029年3月 予定	評価の実施日	2025年9月6日	
敷地面積	24,654 m ²	作成者	河田健	
建築面積	3,138 m ²	確認日		
延床面積	5,733 m ²	確認者		



3 設計上の配慮事項			その他
総合 これはCASBEE静岡(2021年版)による評価結果です。本建物は、磐田市消防本部と磐田市消防署の移転にあたり、新たな移転先となる磐田市大久保地域で、防災力を高めた庁舎を整備するものである。茶畑の広がる長閑な景観に計画することから、周辺との緑の調和や、消防庁舎として市民を迎える歩行者空間の創出を行った。また、職員の健康・快適性に配慮するとともに、多様な使われ方に合わせた会議室、防災対策本部室の計画を行った。			本敷地には20mの高低差があることから、造成工事が伴う計画である。造成時には土量が発生するが、掘出土量を可能な限り削減するため、「調整地」「出動エリア」「訓練エリア」「駐車場エリア」の各エリアの位置と高さ(レベル)を土量(掘削土)が少なくするように設定した。これは、敷地内の地形・原風景をそのままに、敷地外への掘削土量や運搬トラックの縮小等に寄与し、敷地外への影響も最小化している。
Q1 室内環境 職員の健康・快適性に配慮し、南側の直射日光の制御を行うとともに、適切な換気量確保した。職員が常時滞在する事務室(消防本部室)の空調設備は、天井放射空調方式を採用するなど、快適な居住環境を提供できる空間とした。	Q2 サービス性能 消防庁舎の機能として防災力を高めた計画とした。電気は非常用発電機の設置等を行い、下水については緊急時の汚水の貯留槽を設置し、災害時の継続使用に対応した設備計画とした。	Q3 室外環境(敷地内) 外構計画は高低差のある敷地にコンクリート擁壁を多用しない、法面による緩やかな外構とし、周辺の景観と連続した緑豊かな植栽計画とした。さらに、高木等は防火樹を植樹することで、歩行者空間を訪れた市民が防災を学べる外構づくりを行った。	
LR1 エネルギー 高い断熱性能を確保したファサード仕様とともに、中間期などは自然換気が行いやすい吹抜けを利用した重力換気を計画し、エネルギー消費量の少ない庁舎を計画した。	LR2 資源・マテリアル 雨水は消防訓練用に活用できる計画とした。躯体は高耐震性のある計画とし、一部にプレストレスコンクリートを利用し、超スパンによる躯体材料の使用削減を図っている。	LR3 敷地外環境 西風の強い地域であり、建物の短辺を東西とすることで、風の影響を受けにくい計画としている。これは、消防活動上も車庫を南面に計画することができ、消防用途にも最適な配置計画としている。	

■ CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■ Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■ 「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと■ 評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される